

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽光小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	56人	算数	56人	理科	56人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	57人	算数	57人	理科	59人
------	----	-----	----	-----	----	-----

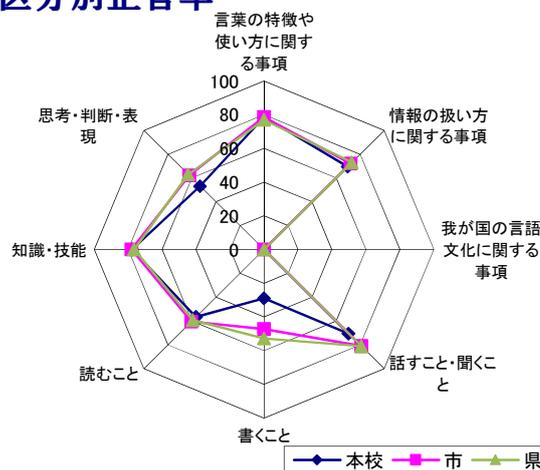
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽光小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.6	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	69.6	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	70.5	81.0	81.1
	書くこと	29.0	47.2	52.8
	読むこと	56.7	60.5	59.3
観点	知識・技能	77.7	78.0	76.5
	思考・判断・表現	53.2	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

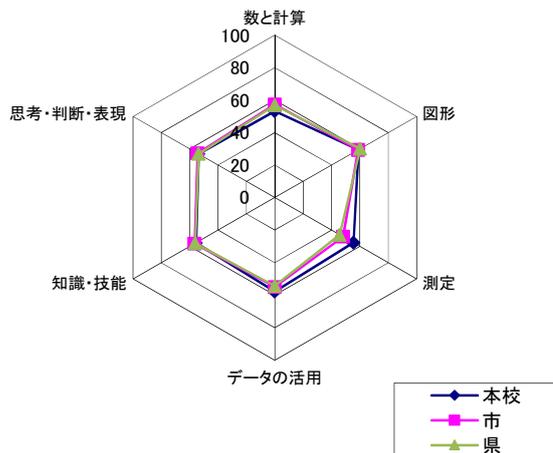
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>本校は、市の平均正答率と同等である。</p> <p>○主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ問題では、市の平均を6ポイント上回っている。</p> <p>●漢字の書きの問題の正答率が、読みの問題に比べて低い。</p>	<p>・引き続き、主語と述語との関係をしっかりと捉え、文章を読み書きできるように指導していく。</p> <p>・漢字の読み書きについては、50問テストや小テストを導入することにより、漢字練習が児童の生活習慣に根付くように、今後も指導を継続していく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>本校は、市や県の平均正答率より低い。</p> <p>●国語辞典の使い方についての正答率が、市の平均を2ポイント下回っている。</p>	<p>・国語辞典の使い方は、漢字辞典の使い方の学習でも復習したが、まだ定着していない。普段の学習において言葉の意味調べを行ったり、自主学習での使い方を紹介したりと、繰り返し活用する場を設定していく。</p>
我が国の言語文化に関する事項		
話すこと・聞くこと	<p>本校は、市や県の平均正答率より低い。</p> <p>●自分の考えを、理由を挙げながらまとめる問題は、市や県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・国語だけでなく、他教科においても話し合い活動を充実させる。自分の考えを相手に伝える際には、理由を挙げながら、分かりやすく話すことができるよう指導する。</p>
書くこと	<p>本校は、市や県の平均正答率より低い。</p> <p>●条件に合わせて、理由や事例を明確にした文章を書く問題では、条件を満たしていない解答が多い。また、無解答の児童が40%近くいる。</p>	<p>・国語の「書く」単元や他の教科のまとめる学習においても、自分の考えを書く場面を設定する。新聞作りや手紙を書く学習を通して、条件に合った文章を書くことを繰り返し指導する。</p> <p>・書くことへの苦手意識を減らしていくために、日記や行事等の感想など、取り組みやすい内容から、書くという機会を増やしていく。</p>
読むこと	<p>本校は、市や県の平均正答率より低い。</p> <p>○物語文の読み取りついて、叙述を基に場面の様子を捉える問題は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、市や県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・読書を好む児童が多く、図書室で本を借りる児童も多いが、内容について話し合ったり、紹介し合ったりする活動は少ない。今後は、読んだ本について要約したり、あらすじをまとめたりする活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立陽光小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.2	57.4	56.9
	図形	58.9	58.7	60.1
	測定	55.4	48.1	45.7
	データの活用	57.7	54.9	54.3
観点	知識・技能	55.6	56.6	56.2
	思考・判断・表現	53.8	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

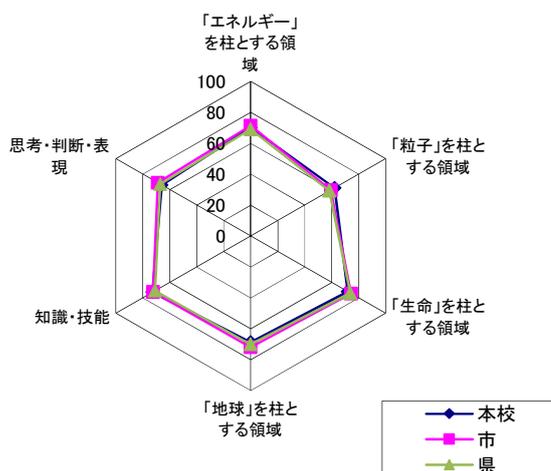
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校は、市や県の平均正答率より低い。</p> <p>○かけ算や整数と小数の計算の問題は、県や市の平均正答率と比べて同等か上回っているものが多い。</p> <p>●数直線上で分数や小数の大きさを問う問題の平均正答率が、県や市と比べて大きく下回っている。</p> <p>●分数の表す大きさを問う問題や、小数のしくみや表し方を問う問題の平均正答率が、県や市と比べて大きく下回っている。</p>	<p>・分数、小数の概念は、5年生の算数を学ぶ際の土台となるものなので、反復練習を取り入れ、定着させる必要がある。朝の学習や授業開始時などの時間を利用して、プリント等で取り組ませる。</p>
図形	<p>本校は、市の平均正答率とほぼ同等であり、県の平均正答率より低い。</p> <p>○正三角形の作図や、二等辺三角形の性質についての問題では、県や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●箱の横の長さから球の半径を求める問題は、県や市の平均正答率と比べて下回っている。</p>	<p>・図形の学習では、具体物を用いた視覚的・感覚的な授業を行い、知識の定着を図る。</p> <p>・作図や測定に使う用具の使い方や手順を丁寧に指導し、数多くの問題に取り組むことで、技能や表現力の向上を目指す。</p>
測定	<p>本校は、市や県の平均正答率より高い。</p> <p>○時間が経過する前の時刻を求める問題の平均正答率が、県や市と比べて大きく上回っている。</p> <p>●重さを基準量のいくつ分で考えて説明したり、はかりの目盛りを読み取り重さを答える問題は、平均正答率は県や市と比べて上回っているが、無回答率が高い。</p>	<p>・時間や重さについては、生活と結び付けながら丁寧に指導していく。特に重さについては、具体物を用いた視覚的・感覚的な授業を行っていく。</p> <p>・道のりの問題では、「どちらの方が何m短い」という答え方に誤りが見られたことから、同様の問題の復習を行い、定着させていく。</p>
データの活用	<p>本校は、市や県の平均正答率より高い。</p> <p>○目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題では、県や市の平均正答率より高い。</p> <p>●二次元の表の合計欄に当てはまる数を答えたり、表から傾向を読み取ったりする問題では、県や市の平均正答率より低い。</p>	<p>・問題の読み取り方や、表やグラフの見方を反復練習させていく。また、資料から読み取れることを話し合う活動の場などを設定していく。</p>

宇都宮市立陽光小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.1	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	62.1	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	71.9	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	68.8	72.0	70.1
観点	知識・技能	72.9	72.5	70.9
	思考・判断・表現	65.9	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>本校は、市の平均正答率より下回るが、県の平均正答率よりは上回っている。</p> <p>○輪ゴムの数と車が動く距離の関係について考える問題や電気の基本的な問題では、正答率が市や県を上回っている。</p> <p>●糸電話の実験結果から複数人でつないだ場合を考える問題や磁石に関する実験結果から考察する問題は、正答率が市や県を下回っている。</p>	<p>・実験を行う際に、どの条件が結果に影響しているのかを確認しながら取り組ませるようにする。</p> <p>・電気や磁石の特徴について、再度確認する。</p> <p>・実験後の考察は、それぞれの結果の解釈の仕方について話し合う場を設け、自分の考えを吟味する時間も取るようにしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>本校は、市や県の平均正答率を上回っている。</p> <p>○はかりを用いて調べる技能問題や実験結果から推測して異なる材質の体積の大きさを考える問題では、正答率が市や県を上回っている。</p> <p>●粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ問題や素材の違う物の体積と重さの関係を問う問題は、正答率が市や県を下回っている。</p>	<p>・実験の方法、内容をしっかりと確認させ、実験結果から分かることを自分の言葉でまとめるように指導する。</p> <p>・実験では、結果を根拠を基に予想させてから進めるようにする。実験がうまくいかなかった際にも、その理由を検討する時間を取るようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>本校は、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○モンシロチョウの体のつくりについての問題では、正答率が市や県を上回っている。</p> <p>●他の昆虫と体のつくりや育ち方を比較して差異点や共通点を答える問題では、正答率が市や県を下回っている。</p>	<p>・植物の成長の過程を確認できるように観察カードを記録するようにする。また、他の植物と比較することで、差異点や共通点を見出し、理解を深めさせていく。</p> <p>・昆虫の観察を通して、体のつくりや育ち方を確認する。また、他の昆虫と比較することで、差異点や共通点についても理解を深めさせていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>本校は、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○温度計の正しい使い方についての問題では、正答率が市や県を上回っている。</p> <p>●太陽と日陰の位置関係についての問題では、正答率が市や県を下回っている。</p> <p>●日なたと日陰で地面の温度を調べた問題では、正答率が市や県を下回っている。</p>	<p>・「月や星」の学習をする際に、今まで学習したことを使って位置を確認するなどし、知識と技能の定着を図っていく。</p> <p>・問題の意味や状況を理解していないので、何について聞かれているのかを問題をよく読んで答えるように指導する。</p>

宇都宮市立陽光小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の肯定割合は76.3%で、県の肯定割合より10ポイント上回っている。学校でも、答え合わせのときにすぐにやり直しをしていることから、習慣化されてきていると考えられる。もう一度問題を解くことで、自分の苦手なところを把握するとともに、解き方をしっかり理解させたい。

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」の肯定割合は91.5%で、県の肯定割合より9.2ポイント上回っている。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の肯定割合は72.9%で、県より11ポイント上回っている。授業でも調べ学習を行うことが増えていることから、校内図書室や一人一台端末、市の図書館などを活用し、疑問や不思議に思ふことをすぐに調べられるようにしていきたい。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定割合は86.4%で、県より11ポイント上回っている。ペアやグループでの活動をいろいろな場面で取り入れていくことで、子ども同士が対話し、主体的に学べるようにしていきたい。

○「しょう来のゆめや目標をもっている。」の肯定割合は96.6%で、県より6.6ポイント上回っている。将来について明確に考えをもっている児童が多いことが伺える。キャリア教育を通して、子どもたちが自立し、将来社会で活躍できる力を身に付けられるようにしていきたい。

○「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」の肯定割合は91.6%で、県より10.6ポイント上回っている。また、「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている。」の肯定割合は93.2%で、県より10ポイント上回っている。朝のスピーチで自分のことを話したり、自分の考えを書いたりする活動を行っていくことで、考えをしっかりとるようになっていきたい。

●「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」の肯定割合は88.1%で、県より5ポイント下回っている。当番活動や係活動のめあてを意識させながら、責任をもって行えるように声を掛けていきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」の肯定割合は69.5%で、県より10.1ポイント下回っている。社会や世の中について関心をもてるように、身近に感じられるテーマを選び、その内容についてみんなで話し合う時間をもつようにしたい。

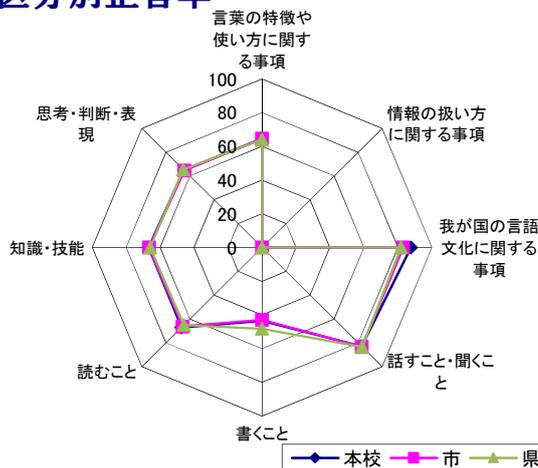
●「今回の調さで、問題をとく時間は十分でしたか。」の肯定割合は、3教科とも県より下回っている。読み取りや文を書くことを苦手とする児童が多いので、問題をしっかりと読んで内容を理解し、自分の考えをまとめる活動を繰り返し行っていくことで慣れさせていきたい。

●「毎日、朝食を食べている。」の肯定割合は91.6%で、県より3.4ポイント下回っている。保健だよりや食育だよりなどを通して、朝食の大切さを家庭へも啓発していきたい。

宇都宮市立陽光小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	64.5	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	87.7	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	82.9	83.3	83.4
	書くこと	43.4	42.8	48.2
	読むこと	66.9	66.1	65.1
観点	知識・技能	66.8	66.5	65.9
	思考・判断・表現	65.0	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

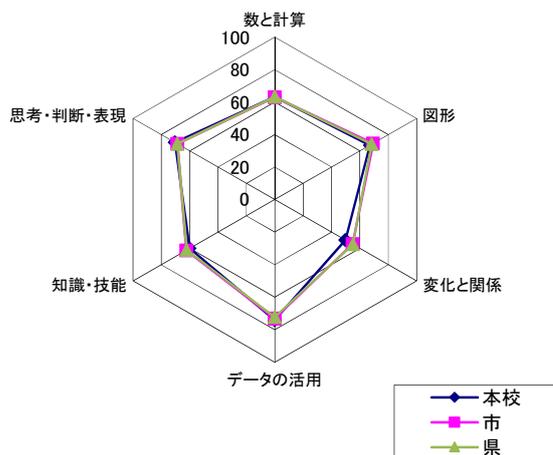
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	本校は、市や県の平均正答率とほぼ同等である。 ○漢字の読みは市の平均正答率と同等か、やや上回っている。 ●漢字と送り仮名を書く問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。	・今後も漢字の練習や、AIDリルの活用、小テストの実施などを行い、知識の定着を図る。 ・作文を書く際や、他教科の学習においても既習の漢字を使って読み書きをするように繰り返し声を掛け、使い方に慣れるようにする。
情報の扱いに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	本校は、市や県の平均正答率を上回っている。 ○ことわざの意味を理解し、正しく使っている文を選ぶ問題では、市の平均正答率を4.6ポイント上回っている。	・ことわざを理解し、表現に用いることができるようにするために、練習問題を解いたり、辞書を使って調べたりする活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	本校は、市や県の平均正答率とほぼ同等である。 ○聞き取ったことを基に、司会者の発言に適する内容を答えたり、自分の考えを理由を挙げて書いたりする問題では、市の平均正答率を上回っている。 ●話し手の説明した内容に適した文を選ぶ問題では、市の平均正答率を下回っている。	・話を聞くときに、メモを取ったり、短い言葉でまとめたりするなど、内容が正しく聞き取れているかどうか確認する活動を取り入れていく。 ・話し合い活動の中で、自分の意見と友達の意見を比べて共通点や相違点を考えるように声を掛ける。
書くこと	本校は、市の平均正答率とほぼ同等である。 ●アンケート調査の結果から読み取ったり、自分で考えたりしたことを文章に書く問題では、平均正答率が5割以下だった。	・感想や日記などを書く機会を設け、文章を書くことに慣れるようにする。 ・目的や条件に合わせて短い文を書いたり、キーワードを用いて振り返りを書くなど、課題に応じた文章が書けるような活動を取り入れる。
読むこと	本校は、市や県の平均正答率よりもやや高い。 ○文章を読んで登場人物の気持ちに関する文を選ぶ問題では、市の平均正答率を上回っている。物語文において、 ●叙述を基に内容を理解したり、要約したりすることに課題が見られる。	・今後も登場人物の気持ちを想像する活動を行い、物語の内容を理解できるような授業展開を工夫する。 ・説明文については、段落ごとに要旨をまとめたり、叙述を基に相互関係を捉えたりしながら読み取りを進めるようにする。

宇都宮市立陽光小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.2	63.0	63.3
	図形	67.1	69.2	68.3
	変化と関係	49.7	54.8	55.0
	データの活用	74.1	73.1	72.3
観点	知識・技能	60.1	62.3	62.1
	思考・判断・表現	70.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

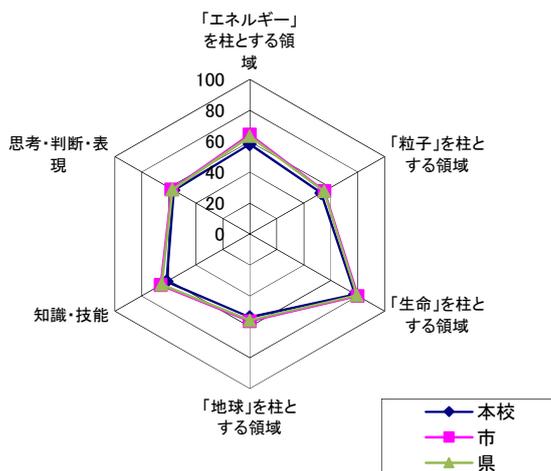
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校は、市や県の平均正答率とほぼ同等である。</p> <p>○図の中の数量を式で表す問題では、市の平均正答率と比べて、約11ポイント上回っている。</p> <p>●大きい数のしくみの計算についての問題では、市の平均正答率と比べて、約18ポイント下回っている。</p>	<p>・現在学習している問題だけではなく、過去に学習した計算についても、定期的に宿題に出したり、自主学習で取り組むように促したりすることで、問題にあった計算方法を取捨選択する能力を身に付けさせていく。</p> <p>・大きな数では、苦手意識を覚える児童も多い。できるだけ具体的な事例を示したり、数直線や位取り表を用いて視覚的に捉えやすくしたりする工夫をしていく。</p>
図形	<p>本校は、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○立方体と直方体の違いを選ぶ問題では、市の平均正答率と比べて、約4ポイント上回っている。</p> <p>●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題では、市の平均正答率と比べて、約6ポイント下回っている。</p>	<p>・図形の問題では、図形の特徴を丁寧にまとめながら、それぞれの図形の性質を理解することができるようにする。</p> <p>・三角定規を構成する角の大きさを正しく覚えていないことによる誤答が多いので、三角定規の角の大きさを確認し、正しい角度を定着することができるようにする。</p>
変化と関係	<p>本校は、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、市の平均正答率と比べて、約5ポイント下回っている。</p> <p>●割合を使った長さの求め方を説明する問題では、市の平均正答率と比べて、約7ポイント下回っている。</p>	<p>・表を縦に見たり横に見たりして、伴って変わる2つの数量の関係の中から規則性を見つけ出せるようにする。</p> <p>・割合が基準値の何倍かで求められることを理解できるようにする。</p>
データの活用	<p>本校は、市や県の平均正答率とほぼ同等である。</p> <p>○二次元の表の空欄がどのような人数を表しているか説明する問題では、市の平均正答率と比べて、約9ポイント上回っている。</p> <p>●折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題では、市の平均正答率と比べて、約5ポイント下回っている。</p>	<p>・グラフや表を読み取ることは、算数の授業以外にも、社会の統計や理科の実験など複数の教科で必要な力である。様々な場面で見方・考え方を横断的に養っていきながら学習活動に取り組めるようにする。</p>

宇都宮市立陽光小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	58.1	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	52.9	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	78.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	53.8	56.4	55.8
観点	知識・技能	61.7	66.0	65.3
	思考・判断・表現	56.5	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>本校は、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路のうちプロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ問題では、市の平均と比べて約4ポイント上回っている。</p> <p>●回路の乾電池の向きを入れ替え、簡易検流計の針のふれ方を示した図を選ぶ問題では、市の平均正答率と比べて約16ポイント下回っている。</p>	<p>・電流の実験など具体的な操作を通して実感を伴った理解をするために、グループの実験の中で個人が器具を操作する時間を確保し、指導の改善を図る。</p> <p>・Aドリルを活用して繰り返し問題を解いたり、1人1台端末で動画視聴や教科書の資料を活用して視覚的効果を生かした学習を進められるようにしたりするなど学習の仕方を指導する。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>本校は、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○温度による水の体積の変化を空気と比較し、答える問題では、市の平均と比べて約5ポイント上回っている。</p> <p>●湯気について適切に述べた文章を選ぶ問題では、市の平均と比べて約8ポイント下回っている。</p>	<p>・三態変化について学習するときには、言葉だけの理解にとどまらず、身近に見られる現象を図や言葉で説明する活動を取り入れることで理解を深められるように指導する。</p> <p>・学習したことと実生活が結び付くことを考える機会を設けることで、実感を伴った理解を深める。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>本校は、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○生物の越冬について適切に比較し、まとめた考察を選ぶ問題では、市の平均と比べて約3ポイント上回っている。</p> <p>●骨のはたらきを説明した文章をすべて選ぶ問題では、市の平均と比べて約16ポイント下回っている。</p>	<p>・実際に植物を育てたり、動画教材などを活用したりして、観察・体験を通し、指導する。</p> <p>・低学年の生活科と関連付けることで、過去の学習を生かした知識の定着を図れるように、学年間の見通しをもった指導をする。</p> <p>・ヒトの体について学ぶ単元では、実際に体を使って調べたり、その結果を模型を見て実際の体のつくりと結び付けて考えたりするなど、実感を伴って理解できるように指導する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>本校は、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○雨の日の気温を示したグラフを選び、1日の気温の変化に着目し選んだ理由をこたえる問題では、市の平均と比べて約9ポイント上回っている。</p> <p>●一日の気温の変わり方を示したグラフを読み取っている文章を選ぶ問題では、市の平均と比べて約17ポイント下回っている。</p>	<p>・気温の測り方など観察や実験の基礎となる器具の操作やそのポイントについては、どの学年でも丁寧に指導をし、学校全体として定着を図る。</p> <p>・グラフを読み取る力を育てるために、自分たちで一日の気温の変化のデータを集め、折れ線グラフにまとめる活動を行い、それぞれのグラフが何の天気を表しているのか、そのグラフの特徴と結び付けて考えられるよう指導する。</p>

宇都宮市立陽光小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」の肯定割合は96.8%であり、家庭で学習する習慣はついてきている。
 ○「難しい問題にであうと、よりやる気ができる。」の肯定割合は県をやや上回っていた。学習の基礎・基本が身に付き、意欲が高まってきていることが伺える。
 ○「しょう来のゆめや目標をもっている。」では肯定割合が93.7%であり、県の平均よりも5ポイント高い。また、「家の人としょう来のことについて話すことがある。」の肯定的回答の割合が77.8%であり、県の平均よりも10.4ポイント高い。将来について明確に考えを持っている児童が多いこと、将来についての興味、関心が高いことが示されている。キャリア教育の中で将来について考えることで、今後も児童の興味、関心を引き出していきたい。
 ○「家でのきまりや約束を守っている。」では肯定割合が96.8%であり県の平均を5.7ポイント上回っている。家庭の中の指導で、きまりややくそくをいしきしていると考えられる。学校でも学活や道徳等において規範意識の醸成を図っていく。
 ○●「国語の学習は好きですか。」について肯定割合は57.1%であり、県の平均からは12.2ポイント少ない結果となった。また、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。」について肯定割合は73%であり、県の平均よりも7.4ポイント少ない結果となった。その一方で「国語の学習は、しょう来のために大切だと思いますか。」では肯定割合が95.3%となっており、将来に大切なものであるという自覚を各個人がもっている。教員が教材研究を重ね、分かる授業を展開していくことで学習意欲を高めていきたい。
 ●「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」の肯定割合は69.8%、「家で、学校の復習をしている。」は57.2%となっており、苦手を克服しようとしたり、得意な分野を伸ばそうとしたりするなど、自主的に学習することへの意欲は高いとはいえない。自主学習の方法を示したり、頑張った成果を認める場の設定をしたりして、自主学習への意欲喚起を図る。
 ●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の肯定割合は、県よりも12.5ポイント下回った。図書館指導や1人1台端末の活用を学習の中で指導する。
 ●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の肯定割合が、県より21ポイント下回った。様々な教科を通して、自分の考えをまとめる活動を取り入れ、書くことに慣れるようにする。また、文例を示すことにより、考えを文章にすることに自信がもてるようにする。

宇都宮市立陽光小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の定着	・基礎力を身に付けるために、朝の学習の時間を活用し、学習内容の定着を図る。 ・AIDドリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。	・知識・理解に関する問題については、4年生では国語、理科が市の平均正答率とほぼ同じ、算数はやや下回った。5年生は国語はほぼ同じ、算数、理科では市を下回った。問題によって正答率の違いが大きく、十分に理解できていない内容があることが伺える。
読解力・思考力・表現力の育成	・問題文の趣旨やポイントとなる言葉を見つける指導を丁寧に行う。	・文章の趣旨を捉えたり、他の文との関連を考えたりの問題では、正答率が低かった。 ・指示された条件で作文することや考えを説明する問題の正答率が低かった。
言語活動(書く活動)の充実	・言語活動の充実を図る。低学年は文字慣れと視写、中学年は読書と行事作文、高学年はに文脈を捉えた感想交換と意見文に触れるようにさせる。 ・本時のめあてに対するまとめを、自分の言葉で書く時間を設け、振り返りを確実に行う。	・文を書くことが難しいと考えている児童が市の平均よりも上回った。 ・9割の児童が学習のまとめを書いていると答えている。振り返りになると、肯定割合が8割を下回った。学習時間の中で振り返る時間が十分に取れていないことが伺える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎・基本の定着が不十分な部分がある。	・基礎学力を身に付ける学習の時間の確保	・朝の学習15分間に課題のある単元の復習問題や応用問題を用意し、集中して取り組ませる。 ・AIDドリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。
・限られた時間で文章を理解し、考えをもちたり表現したりすることが苦手な児童が多い。	・言語活動の充実(書く活動)の充実	・発達段階に応じて、文章を書く機会を設ける。(低学年は文字慣れと視写、中学年は読書の感想と行事作文、高学年はに文脈を捉えた感想交換と意見文) ・多様な種類の文章を読む機会を設け、たくさんの言葉と出会わせることにより、考えを表現する語彙力を高める。